

## オンライン授業に学ぶ

自粛の中で迎えた今年の連休は、いかがでしたか？私も、庭のウッドデッキのペンキ塗り、庭の手入れや掃除の手伝い、武蔵大学での講義の準備などをして過ごしました。該当大学では「人文地理学概説」「地誌学」を担当していますが、今のところ5月半ばまではオンライン授業となっています。毎回のこととは言え、オンライン授業の準備には以外と時間がかかるもので、大学生相手の90分の授業で使うスライド作りに毎回8時間程度を要します。また、授業後には週末課題を課しており、40名足らずの学生から届いたリフレクションの返信と課題評価に最低3時間を費やしています。さらに、学生の皆さんにも次週の授業までに読んでおくべき資料や論文を事前に配付しています。しかし、これが中学高校の授業を持たない私にとって、とても「良い知的な刺激」になっています。

さて、緊急事態宣言を受けて先月の27日から始まった本校のオンライン授業、連休明けの今日から後半が始まりました。オンライン授業と対面授業、それぞれ利点と欠点がありますが、「自ら考え学ぶ」ことが基本であることに違いはありません。「与えられる学び」からの切り替えを各自の課題として、努力と工夫をしてください。本校では、生徒の皆さんの集中力と健康面を考慮して、授業は1日4時間。配信(説明)時間は25分間に限り、授業後半の15分間を各自のまとめや問題演習に当てています。もちろん、普段の授業と同じく「先生の説明を聞いて黒板を写す」だけでは不十分です。授業の前日には教科書を読んで予習をし、授業中の説明を聞き、後で「授業が再現できるよう」、ノートにメモを取り、要点をまとめて置くことが大切です。皆さんはいかがですか？社会に出て気づく人も多いですが、他人の話を中心に「聞き合う」が大事です。最近、数多く出版されている「学び方」の書物で多く指摘されているように、書き写すことが知識を定着させるとは無縁なのかも知れませんね。

COVID-19感染症拡大の中、USAやヨーロッパ諸国を始め、海外の大学でもオンライン授業が主流となっていますが、日本の大学(高校)との大きな違いは授業数です。大学生の場合、もちろん学部学科、学年によって事情は異なりますが、日本と比べて圧倒的に授業数が少ないと言えるでしょう。しかし、一つの授業を受けるには数多くの文献・資料に目を通してのぞむ必要があります。教える側は、それらを読んで理解したものとして授業を進めます。資料を読んで予習に時間を掛けるため、日本の大学生と比べて3分の1程度しか授業数がないのですから、たっぷり予習をする時間が確保されています。それに比べて、日本の学生は小学校以来の学校教育の中で、「授業を受けること」という受動的行為に重きを置いて来たのですから、ある意味仕方ないかも知れません。

しかし、今、これまでの皆さんの学習スタイルからの転換が求められているのです。さあ、皆さんもオンライン授業をうまく利用して、「自ら考え学ぶ」スタイルへの切り替えを進めて行きましょう。そこに新しい学びの楽しさがあるはずですよ。

そこで、今月の言葉 **“Change before you have to”**

「変革せよ。変革を迫られる前に。」

昇降口に飾ったポスターです。

アメリカ合衆国大企業ゼネラル・エレクトリック社のCEOの元社長ジャック＝ウェルチの名言です。周囲から言われる前に行動しよう！

